



あおもり 町連だより

第186号

平成22年7月発行

青森市町会連合会

TEL 017(734)2584

FAX 017(734)2587

22年度
定時総会

第8代会長に加川幸男氏を選出

事業計画など全議案承認

青森市町会連合会は5月20日（木）午後1時から市文化会館で平成22年度定時総会を開き、各議案を原案通り承認し、第8代会長に加川幸男氏（白旗野町会長）を選出しました。

総会は原田一紀常任理事が司会を務め、山上吉昭副会長が開会を宣言、物故者へ黙祷をささげた後、佐藤久雄会長があいさつに立ち、「町会活動の活性化支援を基本方針に、安全で、支え合いのある住み良い地域づくりを目指して、諸事業を計画しています」と22年度の方針を述べた後、「会長就任から10年を節目に、今回会長職を退任することにしました」と勇退を表明しました。

続いて、長年町会運営に貢献し、退任した町会長29人（2面に掲載）と21年度優良町会員（120町会、145人）の表彰を行い、受賞者を代表して小畑忠一氏（花園第一）が謝辞を述べました。



加川幸男新会長

引き続き、来賓の鹿内博市長、渋谷勲市議会議員、牧野勝青森警察署地域官（署長代理）から祝辞があり、浪岡町内会連合会の野呂一則会長が紹介されました。

この後、石川穹氏（上浦町）を議長に選出して議事に入り、21年度事業報告、収支決算、22年度事業計画案、予算案など各議案について審議し、原案通り承認しました。



この後、任期満了に伴う役員改選で、新会長に加川幸男氏を選出、次の方々を新役員に選出しました。

▽副会長＝木村眞一（古館）
佐藤俊雄（志田）須藤喜代行（幸畑阿部野）疋田司（内眞部）山上吉昭（橋本南第二）
▽常任理事＝小田源太郎（岡造道）原田一紀（江渡上）

館山義光（雲谷）館田直吉（油川寺町）種市勲（中奥野）葛西房子（女性部会）

▽監事＝對馬一宏（東青森駅前）鶴谷久勝（十三森）渡辺聰明（塩町）

紙面紹介

- | | |
|----|----------------------------------|
| 2面 | 退任町会長と優良町会員を表彰
事業計画 |
| 3面 | 町会長特別研修会
新青森駅前に交番設置など市へ要望 |
| 4面 | 自主防災組織リーダー研修会
市社協・市民児協と情報交換 |
| 5面 | おらほの自慢（花園町会、三内第二町会） |
| 6面 | 頑張っています（小橋町会）
東部第9区連合町会が広報紙発行 |

22年度事業計画

町会活動の活性化支援

基本方針

青森市民憲章を尊重し、各町会と連絡協調を図りながら「町会活動の活性化支援」に重点をおいて、諸事業に取り組み、安心・安全な住みよい環境づくりと住民福祉の向上に努める。

おめでとうございます

退任町会長と優良町会員を表彰

市町会連合会は、表彰規程に基づき22年度総会で町会長を退任した29人と優良町会員145人を表彰しました。(敬称略)

▽20年以上勤続し退任

杉山安弘(花園町) 小畑忠一(花園第一) 柿崎繁(石江高間) 鶴谷倉吉(嘉重町)

▽5年以上20年未満勤続し退任

津川林(築木館) 故・木村巖(八重田) 伊藤栄(鴨泊) 前田保(沖館第二) 故・山田哲郎(新田) 五日市清治(西千刈) 藤川則夫(県営平和台) 安保博文(新城緑ヶ丘) 蒔苗慶治(住良) 故・小林道明(曙) 長内義美(荒川一区) 穂元豊一(荒川三区)



退任町会長を代表表彰される小畑氏

川村輝美(ハツ役) 坂本芳太郎(上野) 館山一二三(おおすみ) 新岡千代志(幸畑ひばりヶ丘) 河田喜代利(浜田ニュータウン) 故・二唐壽郎(玉川) 故・三浦秀雄(新奥野第二) 今皓(桜川) 三上幸雄(若木) 山田秀夫(大野前田) 溝江進男(夏井田) 松谷源吉(菟町) 小嶋友三郎(寺町)

▽優良町会員=佐々木靖生(浅虫)ほか144人

(事業計画 1面から)



事業計画を説明する部会長

重点目標

厳しい財政状況を踏まえ、運営に当っては、創意工夫し、経費の節減を図り、諸事業に取り組む。次の重点目標を定め、事業部会活動を中心に事業推進に努める。

(1) 研修の充実

- ①町会長研修(新任、特別研修会の開催、地域協議会ごとの研修の充実)
- ②町会連合会の理事・部会員研修
- ③町会の役員研修

(2) 情報提供の充実

- ①町連だよりの発行及び町会広報紙の閲覧拡充
- ②市政懇談会の内容を冊子化し、町会長へ配布
- ③各種研修会での情報提供

(3) 安心・安全な住みよい環境づくりの推進

- ①市政懇談会の開催及び市民と市長のなんでもトークの開催支援
- ②街路灯の設置・修理及び道路舗装、側溝整備の町会要望の働きかけ

③除排雪請負業者の指導強化の働きかけ

④交通安全施設整備の町会要望の働きかけ

⑤路上放置駐車を取り締まり強化の働きかけとチラシによる不法路上放置駐車追放の呼びかけ

⑥アパート等入居者のごみ出し、町会費徴収に関し、関係団体へ理解と協力の働きかけ

⑦災害時要援護者支援事業の支援について

浪岡町内連合会との統合は、浪岡側の動きを見極めつつも統合への環境づくりに努める。

総務部会

各部会との連絡調整を図りながら、各種研修会を開催するほか、市政懇談会の開催及び結果を冊子化して町会長に配布し、町会活動に必要な情報提供に努める。地区連合町会活動の活性化支援及び関係機関(団体)と連携し、青少年の健全育成に協力するとともに、町会連合会の円滑な運営と町会が活動しやすい環境づくりに努める。

地域振興部会

街路灯の新設・維持管理、道路舗装、側溝整備及び除排雪等の町会要望を市及び関係機関に働きかけをし、整備等の促進に努める。自主防災組織化の推進について市と連携・協力するとともにアパート等入居者のごみ出しと町会加入、町会費徴収に関して、関係団体に協力を働きかけするなど安心・安全な住みよい地域の振興支援に努める。

交通・防犯部会

市民の交通安全・防犯意識を高めるため、「のぼり旗」の斡旋配布(有料)及び決起大会・パレー

町会長特別研修会

要援護者の避難支援学ぶ

市町連は3月3日(水)県民福祉プラザで、町会の様々な課題解決を探るため、町会長特別研修会を開催、214人が市の災害時要援護者避難支援事業などについて学びました。

はじめに、市の健康福祉政策課白坂孝志主幹が市の災害時要援護者避難支援事業について、事業の目的、内容などを説明。市の避難支援プランについて①要援護者対象者は在宅の75歳以上のみの世帯員、要介護認定3～5の方、障害者、難病患者②対象者の情報収集は対象者に登録を呼びかけて行った同意方式を採用③同じ町会でも個人によって避難所が異なる場合がある－と紹介し、平常時、災害時の支援体制、支援者が避難誘導する際の留意点を説明、「事業は行政のみで進められない。町会長はじめ民生委員、福祉関係者が連携することが重要」と町会の協力を訴えました。

質疑では①支援者選定のプロセスが分からなかった②町会費を支払わない人への対応は－などの質問がありました。

続いて、市の市民協働推進課三浦大延主幹が「町会運営」をテーマに、町会運営上の課題、取り組み例などを説明。課題解決に向け①町会の収支決算など情報をオープンに②活動を地域にPR③PTA、婦人団体、NPOなど他の団体と一緒に活動－することが大事と話し、「市は補助金、助成金を用意し、町会の活動を支援しているので、相談、活用してほしい」と呼びかけました。

ドを実施するほか、関係機関と連携して路上放置駐車追放の呼びかけ及びロードミラー、信号機などの交通安全施設整備の町会要望をとりまとめ、設置促進を市及び関係機関へ働きかけするなど安心・安全な地域づくりに努める。

環境部会

ごみ出しのルール順守とマナーアップ及び資源ごみの分別徹底について、市及びごみ問題対策市民会議と連携して、ごみの減量化につながるよう努める。環境美化を進めるため、花壇やプランターなどの設置及び町会内の一掃き運動を呼びかけするなど、住みよい地域環境づくりに努める。

新青森駅前に交番を 市へ要望書を提出

市町連は1月6日、東北新幹線新青森駅開業に向けて、同駅前への交番設置を関係機関へ働きかけてほしいと青森市長へ要望書を提出しました。

[要望事項]

12月の東北新幹線新青森駅開業を踏まえ犯罪防止と地域住民の安心・安全確保の観点から新青森駅前に交番を早急に設置していただきますよう、関係機関に強力に要望していただくようお願い申し上げます。(市町連から要望を受けた青森市は1月27日、青森警察本部生活安全部長、青森警察署長へ同交番の設置について要望しました。)

有価資源物回収奨励金の増額を要望

市町連は、ごみの減量化と資源の有効利用推進、地域活動の活性化を図るため、有価資源物回収奨励金の増額などについて、昨年12月14日、市へ要望書を提出しました。

[要望事項]

- ①市の有価資源物回収奨励金を増額していただきたい。(1kg当りの単価の増額)
- ②アルミ・スチール缶を奨励金の対象品目にしていただきたい。

市町連の2つの要望が実現

市に要望していた「生ごみ処理機への補助制度導入」(昨年10月13日要望書提出。要望事項は町連だより185号掲載)と「有価資源物回収奨励金の増額」(前記)は、市の新年度予算に予算処置されました。ごみの減量化・資源化対策として制度の活用をお勧めします。

福祉部会

社会福祉協議会及び民生委員・児童委員協議会との連絡・協調を図るため、情報交換を行うとともに、市等の健康づくり事業の推進に協力し、健やかで温かい地域社会づくりに努める。

女性部会

環境部会及び福祉部会に協力し、環境美化運動と健康診査受診の呼びかけを行うとともに、町会長と連携して、町内女性部組織の結成を促進するほか、町内女性の集いを開催し、女性部員との連携を強め、町会活動の円滑な推進と女性部活動の支援に努める。

自主防災組織リーダー研修会

日ごろの備え・支援が大事

市町会連合会と青森消防本部、青森市は2月10日(水)、市教育センターで「自主防災組織リーダー研修会」を開き、出席した町会長ら118人が防災に関する知識、市の施策などを学びました。

研修会は、20年度と21年度に自主防災組織を設立した13町会の紹介の後、青森消防本部予防課の村田明人係長がカートリッジ式給油タンクのストーブ、消火器の適正な使い方、点検方法を消火器の内部構造を示しながら説明しました。

続いて、市危機管理室の堤省一主幹が、市の自主防災組織への支援体制について説明。防災訓練での消火器薬剤詰替費の助成、その手続き方法、訓練での留意事項について話し、町会の協力を呼びかけました。

この後、安方町会と相馬町町会が活動発表。安方町会防災部の小林忠弘部会長=写真①=は、昨年12月に町会が独自に作成し、全世

帯に配布した「防災ハンドブック」について紹介し、作成の狙い、地震発生時の行動、非常時持出品、日ごろの備え、災害関係情報に関する連絡先、避難場所、伝言ダイヤルの利用方法、携帯電話の災害用伝言板、119番のかけ方など内容を説明しました。

相馬町町会防災会の太田孝会長



=写真②=は昨年2度行った防災訓練の内容などについて報告、訓練から浮かび

上がった課題として①訓練には全町民の参加が求められる②一人暮らしの高齢者が多く、若い支援者が少ないので「老老支援」の検討が必要③支援者がいない平日の事故発生を想定した訓練も必要④災害時ばかりでなく、日ごろの見守り・支援が必要-と指摘しました。

休憩をはさみ、市健康福祉課の白坂孝志主幹が、災害時要援護者の避難支援について、様々な災害での取り組むべき施策を説明しました。

意見交換では、①高齢者の名簿を共有する団体の連携体制は②市内にも地震を起こす活断層がある。地震に対する市民の意識高揚を図ってほしい③防災訓練が秋に集中しているが春に実施すれば問題があるか④家族に健常者がいても要援護者支援者を受け付けてもらえるか⑤防災組織の組織率が低いのは市の設立までの手続き等の案内が細か過ぎて面倒に思われるからでないか-などの意見、要望がありました。

民生委員の実情訴える

市社協・市民児協と情報交換

福祉部会は2月15日(月)、しあわせプラザで市社会協議会、市民生委員・児童委員協議会と情報交換会を開き、町会が両協議会との関係で抱えている問題について意見を交換しました。

はじめに、町会側の出席者から、市社協が行っている月1回の給食サービス事業について「冬期間は道路事情の悪化などで会場まで出かけるのがたいへんな人が多くなる。冬期間中止も含め、検討が必要でないか」と問題提起。これに

対し、他町会から、「ふだんから配達し、安否確認を兼ねている」「会場では合わせて健診も行っている」など給食サービスへの取り組みが紹介され、市社協は、利用者の意見を聞きながら検討したいと話しました。また、町会側から、共同募金の配分額が減り、町会が予定している活動ができなくなっている現状の紹介や、社協の事業推進に関して、各家庭の実情に応じた対応の要望などがありました。

続いて、各町会から民生委員に関して「引き受ける人が少なく



意見を述べる出席者

なってきた」「委員の数が定員に足りなくて、一人の委員の負担が大きくなっている」「委員が高齢化し、定年の75歳で辞めた場合、新たな委員確保が難しくなっている」などの実情が紹介されました。市民児協側は、委員の定年後、新たな委員が見つからない場合には、引き続き委員を務めてもらう方向も検討していると話しました。



花絶えぬ花園町公園 町民であずまをつくる

当町会は、その名にふさわしい花いっぱいの町会にしようと、昔から美化活動が盛んです。とりわけ花園町公園は、そのシンボルになっており、春は桜、チューリップからはじまり、秋まで絶えることなく美しい花々で彩られます。

花々は、女性部が中心になって、手入れしています。春には、地元の保育園の園児たち

花園町会

とプランターに様々な花を植えました。

公園では、子供たちが夏休みに入ると、ラジオ体操を開き、お盆には、やぐらが生まれ、盆踊りも行われます。毎年、近隣の町会からも多くの人たちが参加してにぎわいます。

昨年秋、ペタンクに初挑戦しました。冬を前に落ち葉の掃除もしています。

一昨年、町会設立60周年を記念して、町民が協力、あずまやをつくり、市に寄贈しました。あずまやはみんなの憩いの場です。草取りの苦勞もありますが、花園町公園は町会の宝です。



おあそびの自慢



子供と高齢者が交流 昔の正月遊びで夢中

当町会は、町民の親睦・交流を図る厚生文化事業を、子供と高齢者が交流できるように、主に子供たちの夏休み、冬休みの期間中に開いています。

夏休み中には、ラジオ体操を行うほか、三内丸山遺跡応援隊の会員を講師に、「勾玉、組み紐づくり」の体験学習、盆踊り・線香花火大会を開きます。

冬休みには「昔の正月遊びの会」を開きま

三内第二町会

す。今年は、新型インフルエンザが心配でしたが、成人の日に開きました。子供たちと高齢者50人ほどが参加、ハンカチ落とし、かるた、あや取り、お手玉、だるま落とし、ビッタ、こま回しに興じました。また、あん玉を食べたり、くじ飴を引いたり、子供たちよりも大人たちが夢中になっていました。

ほかにも、紅葉の季節には、日帰り親睦旅行を開いています。単なる温泉旅行で終わらないように、これには必ず史跡見物、施設見学を組み入れるようにしています。



頑張っています

小橋町会

当町会は、少子高齢化が急速に進む中、住民がみんな仲良く、楽しく、安心して暮らせるように、四つの基本方針①健やかで、明るく、心豊かに②環境の整備・美化推進③福祉の向上④悔いを残さない—を立て、頑張っています。

町会は、子供からお年寄りまで一緒に楽しめる様々な行事を主催していますが、中でも、正月を楽しむ目的で、町会・公民館が主催する「新春初場所大相撲星取り大会」は毎年参加者が多く、たいへん盛り上がります。千秋楽には参加者が公民館に集まり、表彰式を行います。優勝者は横綱として、立派な化粧回しを着け、横



綱土俵入りを披露します。もう25年間も続いています。地域で昔から盛んな、ドップ引き、トランプ大会、盆踊り大会も恒例の行事です。また、稲荷神社へのしめ縄奉納、消防団による正月とお盆の権現様巡行、町会にある2つのグループホームとの交流など、各団体と連携しながら、活発に活動しています。

広報紙『東部第九』を発行

東部第9区連合町会

東部第9区連合町会（宮本明夫会長。合浦、栄町、港町、相馬町、茶屋町、茶屋町東部、茶屋町南、茶屋町第二の8町会）は、地域に関係することを住民に周知して、町会の取り組みや問題について理解を深めてもらう目的で、広報紙を発行しました。

昨年12月11日に発行した第1号=写真=は、同連合町会が導入した「地域コミュニ



ティ除排雪制度」を特集。同制度導入を決めた連合町会の会議の記事や同連合町会が大坂組、青洋建設、市と締結した協定書、協定内容、協定事項、8町会指定の雪寄せ場案内図などを掲載しました。

町連だより新編集委員が決まる

市町連各部会の構成員が変わったことに伴い、各部会選出の「町連だより編集委員」が決まりました。

小田源太郎（地域振興部会）種市勲（交通防犯部会）館山義光（環境部会）館田直吉（福祉部会）宮川梅子（女性部会）

哀悼録

- 玉川町会長 二唐 壽郎 殿
(平成21年12月19日ご逝去)
 - 八重田町会長 木村 巖 殿
(平成22年1月18日ご逝去)
 - 曙町町会長 小林 道明 殿
(平成22年2月25日ご逝去)
 - 新田町会長 山田 哲郎 殿
(平成22年3月14日ご逝去)
 - 八甲町町会長 齊藤 慈徳 殿
(平成22年5月22日ご逝去)
 - 江渡上町会長 原田 一紀 殿
(平成22年6月16日ご逝去)
- 慎んで哀悼の意を表します。

編集後記

新幹線開業日が12月4日に決まりました。日本最速の「はやぶさ」は青森・東京間を3時間余りで結びます。交流人口が増え、生活に身近なところでも様々な変化が予想されます。市町連は、新青森駅へ乗り換えのない青い森鉄道の列車運行、新青森駅周辺の道路・標識の整備、新青森駅前に交番設置など、地元の生活者の視点から提言や要望をしています。新幹線開業をきっかけに、より住みよい環境をつくろうと頑張っています。